

# (73) 栃木県茂木町の茂木(もてぎ)鉦山跡 + 青梅南東鉦山跡 + 鮎田鉦山跡

参考文献(1)に、この鉦山が紹介されていた。本文を抜粋する。「栃木県芳賀郡茂木町、茨城県西茨城郡七会村にある。栃木、茨城県境にあり、花香月山北側山麓に位置する。秩父古生層の砂岩、粘板岩中の石英脈で、走向N70°E、東に70°傾斜する。走向延長100m以上、幅0.6m、石英中にレンズ状の輝安鉦がの集合体が存在する。」これだけの記述しかない。小山から、それ程遠くはないが、場所を意味する単語が3つも4つもあり、それに対して、石英脈は1つだけであり、理解に苦しんだ。が、輝安鉦に、心は惹かれていた。資料収集のために、茂木町立の「みちばた図書館」を尋ね、茂木鉦山に関係しているような文献を探した。あった。「茂木町史」<sup>(2)</sup>である。他巻にわたる茂木町史であるが、第1巻、第4巻、第6巻にアンチモニー鉦山が記載されていた。地図、鉦山跡写真、道路から見た鉦山跡写真もあった。これで一応、茂木鉦山の場所はほぼ確定できた。

地質調査所の図書館で、茂木、笠間付近の古い地質図を閲覧することが出来た。この地質図中にはアンチモン鉦山が、茂木地区に3箇所あったことが明記されていた。茂木、鮎田、青梅南東の各鉦山である。入手したこの地質図資料は後掲している。この地質図と、現在の地形図を対照し、茂木地区を探查した。結果、茂木鉦山は確定できた。地形図1中の青梅の文字付近である。青梅南東鉦山は地形図中の右下の当たりと一応判断している。しかし、鮎田鉦山跡は、未だ見つけていない。また、肝心の輝安鉦は未だ採集できていない。次回にはじっくりと採集に時間をかけて探してみたい。

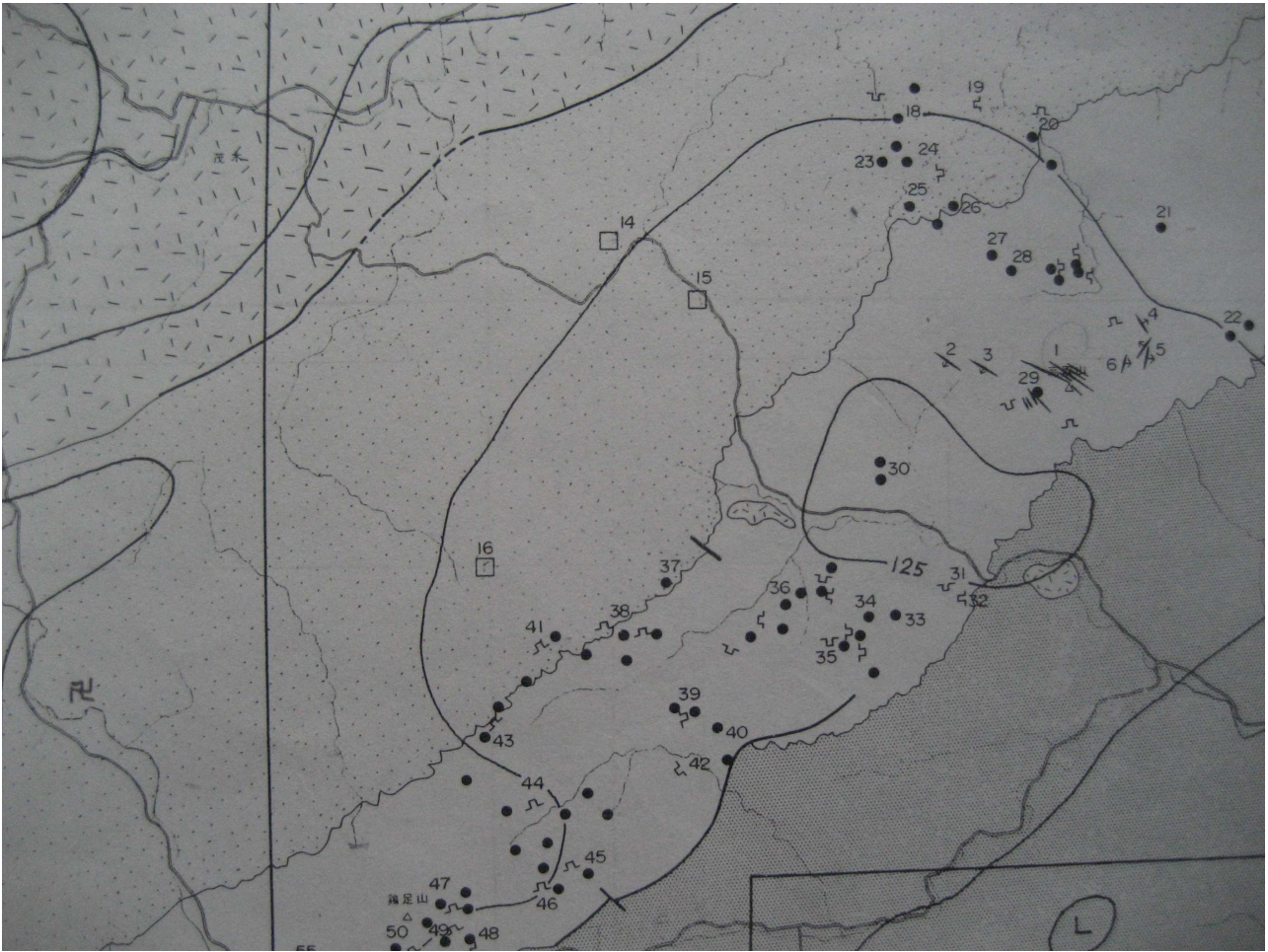
茂木鉦山跡は、「MOTEGIサーキット」の近くの東南側にある。圧茂木鉦山へは、51号を青梅地区で停車し、地形図中の黄緑色に向かって、村道を入れていく。100mほどで、右側に石段があり、その上に鳥居が見える。十二所神社の参道である。最新の地形図にはこの神社は記されていない。山道を登っていくと小山の頂上に、神社がある。訪問のお礼に、賽銭を上げよう。鉦山跡は、参道の途中にあるので、登ってきた参道を再び下ることとなる。参道を登っている途中の右側が鞍部となっている。そこである。

青梅南東鉦山は地形図1の右下の黄緑色のところと考えている。道路から見ると、田んぼの先にある。



地形図1 国土地理院地形図2万5千分の1地形図「茂木+中飯」より。青梅の文字のところに2つほどの坑口跡を見つけた。茂木鉦山跡である。一帯は鞍部となっており、直ぐ下には民家がある。黒破線で神社までの参道を書き加えている。神社記号も記している。右下の黄緑丸は青梅南東鉦山跡と考えている箇所である。

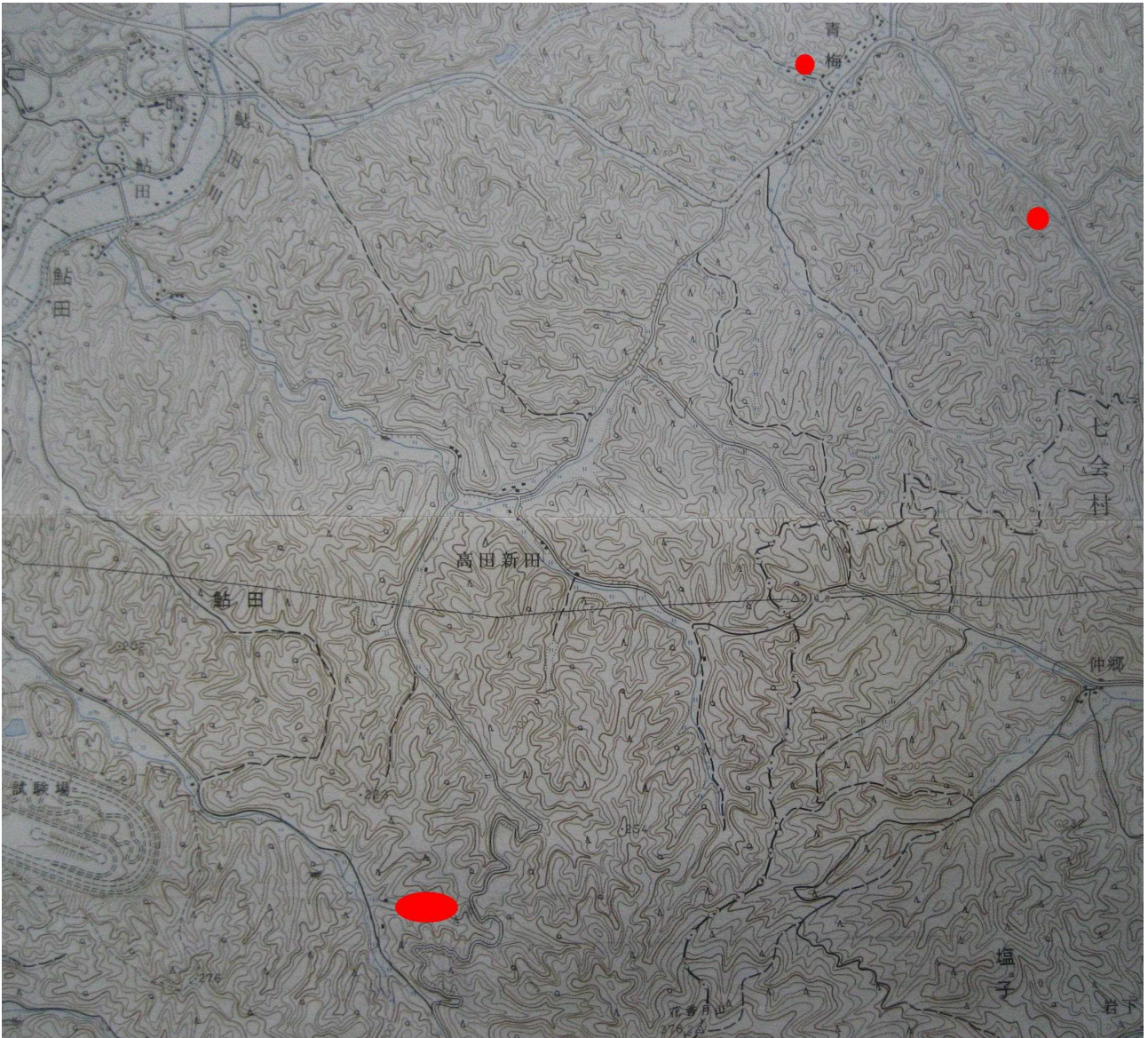
探查日 2011年1月、その他の日



地質図1 地質調査所で閲覧したものである。番号に対応して鉱山名も記されていたが。出典を書きとめておくのを忘れた。四角印はアンチモン鉱山である。14番は茂木鉱山、15番は青梅南東鉱山、16番は鮎田鉱山。因みに黒点はマンガン鉱山である。左上に茂木町名があり、主要道路も書き込まれている。現在の地形図と対比させると、鉱山場所を正確に決めることが出来る。次の地質図も鉱山場所の確定に使用することが出来た。



地質図2 地質調査所で閲覧したものである<sup>(3)</sup>。現在の地形図と対比させると、鉱山場所を正確に決めることが出来る。次の地質図も鉱山場所の確定に使用することが出来た。中央下に「S b 鮎田鉱山」、右上に「S b 茂木鉱山」、これより右下方に「S b」の文字がある。青梅南東鉱山と考えている。所で、茂木鉱山の箇所には「S b 四角」が近接して2組ある。探査当日、参道入口で、住民の方の話を聞くことが出来た。村道を挟んで、沢のある山側にも坑口があった。これが、もう1つの「S b 四角」に相当しよう。今では、かき消えている。その手前の平坦地には選鉱場があったとのこと。今は農地及び宅地となっている。



地形図2 国土地理院地形図2万5千分の1地形図「茂木+中飯」より。地質図1と地質図2から読み取った鉦山位置を、最新の地形図に書き込んだ。赤楕円の箇所である。これを手引きに、探査を行ったわけである。上の赤丸が推定した茂木鉦山跡。その左下の赤丸が同じく推定した青梅南東鉦山跡。そして、下の楕円赤丸は推定した鮎田鉦山跡。鮎田鉦山跡は何度も探査したが、未だに何の痕跡も得ていない。

## 鉾山跡写真



写真1  
51号から見た様子。右上部の林の中が茂木鉾山跡。中央の白壁の家の少し先の右側に参道がある。



写真2  
参道の途中の右側が鞍部となっている。そこに降りて見つけた坑口跡。



写真3  
参道を登り詰めると、小山の頂上に立派な十二所神社がある。



写真4 51号から遠望した、青梅南東鉦山跡と思われる箇所。田んぼの先で、林の下の露地の箇所である。



写真5 写真4の中央部分の斜面で見つけた小さい深い穴。閉塞している坑口跡なのかも知れない。



写真6 鮎田鉦山跡は見つけていない。そのあたりには荷重試験のため3基の鉄塔などが設備されている。廃棄されている制御器施設に刻印されている年代は昭和60年（1985年）であった。25年前の建設であった。この施設の建設で消えてしまったのであろうか？

#### 参考文献

- (1) 「日本地方鉦床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢共編者、朝倉書店、1973年。
- (2) 「茂木町史」、茂木町編纂。
- (3) 「日本地質図大系 関東地方」地質調査所、朝倉書店。  
19. 笠間市－鶏足山の地質

# 追記 鮎田鉦山の追探查

岩友の調査力のおかげで、ようやく「鮎田鉦山」跡を確認することができた。ズリでは輝安鉦、兄弟であるベルチェ鉦らしい標本も採集できた。現地の方からの教示により、予想もしていない箇所には坑口跡も確認できた。本報で、「茂木鉦山」跡と呼んでいる鉦山跡は「青梅鉦山」跡と呼称する方が良さそうである。というのは、この地域に結構、アンチモンを採掘した箇所があった。従って、これら全体を地域の名をとって「茂木鉦山」と呼称するのが妥当と思われる。今回はその茂木鉦山のうちの鮎田鉦山跡というわけである。

現地はごくありふれた里山の中にある鉦山跡であり、何の不安もなく辿りつける。現地への経路は次の通りである。茂木町中央付近から51号線を東上して行く。鮎田地区を通り過ぎ、鮎田川に架かっている橋を過ぎると、緩やかな峠道に入る。この峠の頂上付近で右側に側道がある。右折して、この道に入っていく。緩やかな下り道を下っていく。これ以降は、図1、図2を参照。

この地域には輝安鉦鉦床があちこちにあるようである。全地域穏やかな里山である。適当な沢などを”散策”すると、露頭鉦脈にばったり出会うかも知れない。輝安鉦の入っている母岩の外観をしつかり頭にでも入れて、歩き回ればより確かであろう。

探査日 2018年1月、その他

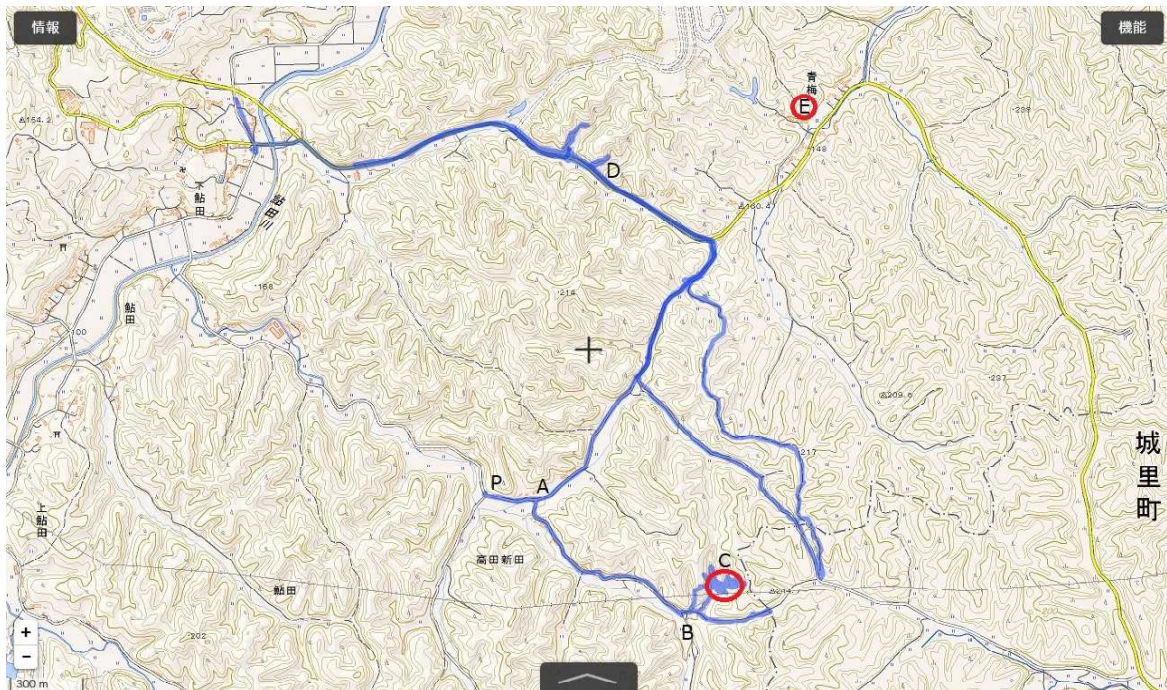


図1 青色曲線がガーミンによる探査経路曲線図。51号から別れ、A点で左側にある側道に入っていく。探査時には、P点に車を置き、ここから徒歩で進んだ。B点より先まで、細い村道があるが、車1台の幅である。車1台ならば、どうにかなろうが、途中で対向車があると難儀しよう。地域の住民に迷惑が掛からないようにするには、P点での駐車をお勧めする。B点で、左側にある沢に入っていく。C点が「鮎田鉦山」跡である。赤丸をつけている。ちなみに51号線に隣り合ったD点で坑口跡を確認した。また、E点での赤丸は、本論で紹介済みの「茂木鉦山」跡（青梅鉦山跡と呼ぼう）である。

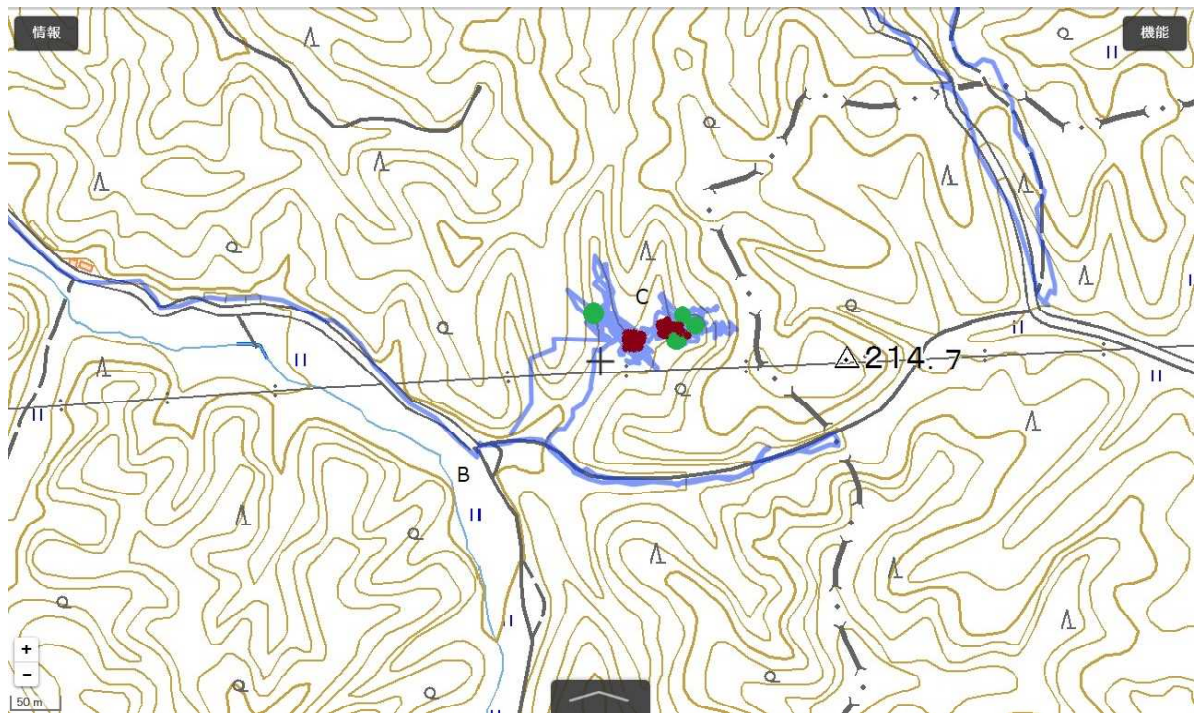


図2 図1の部分拡大図。B点の所には道の山際に石塔がある。左側の沢を進んで行くが、当日ガーミンの受信状況が余り良くなかったようである。ログ曲線に結構なズレがあることに留意。また探査でもあったので、あちこち歩き回っていた結果として、現地へのルートには関係ない余計なログ曲線も描かれている。黄緑丸が坑口跡、茶色のベタがズリ跡。

## 鉱山跡写真



写真1 道の前方が51号線。図1のA点である。右側の細い村道に入って行く。



写真2 図1, 2中のB点である。小さい石塔がある。写真中の右側の暗くなっている沢に入って行く。進んで行くと直ぐに道は分岐する。多分、右側の道はしっかりしており、左側の道は消えかかっているかも知れない。が、左側に進んで行く。





写真3 進んで来ると、右側の開けた沢の入口付近にズリ跡がある。この沢を少し先に進むと、右側少し上に坑口があった。C点である。このあたりに、坑口は幾つかある。そのうちの1つ。このあたり一帯にズリがある。



写真4 写真3で示している坑口の内部の様子。坑道はしっかりしている。下部は水没しているが、入口に堆積している土砂を除けば、排水できそう。



写真5 坑口跡らしいものの一つ。



写真6 これも坑口跡。



写真7 写真6で示している坑口の内部。水は溜まっていない。



写真8 一帯には、坑道が陥没したような幾つもの跡がある。そのうちの一つ。

## 採集鉱物写真

写真9、10に採集したベルチェ鉱 ( $\text{FeSbS}$ ) を示す。銀色から灰色の部分である。写真の横の長さは約6 cm。当然輝安鉱の部分もあると思うが。見た目では、ベルチェ鉱である。



写真9 ベルチェ鉱その1



写真10 ベルチェ鉱その2